



がんセンターたより

総合整備の落札者が決定しました

総合整備推進室長 赤池 信

このたび、がんセンターの総合整備を進める事業者が決定しましたのでお知らせします。がんセンターの総合整備とは、がんセンターを建て替え、新たながんセンターを作り上げていく計画のことであり、平成25年11月の開業に向けて準備を進めています。新しい施設的设计、建設及び維持管理・運営等については、民間の資金とノウハウを活用するPFI(Private Finance Initiative)という新しい公共事業の手法により実施していくことになっています。

このPFI事業について平成21年4月10日に入札公告を行ったところ、「大林組・ニチイ学館グループ」と「日揮株式会社」の2つの事業者から応募があり、9月28日に入札書類の提出を受け付けました。そして、11月から12月にかけて開催された、学識経験者等で構成

される「神奈川県PFI事業者選定審査会」の審査を経て、12月24日に「大林組・ニチイ学館グループ」を落札者として決定しました。

新しいがんセンターの概要

新しいがんセンターの病床数については、今後、平均在院日数の短縮が見込まれることから、現状と同じ415床としていますが、無菌病棟を30床、緩和ケア病棟を20床に増床することで治療の充実を図るとともに、個室を115室に増室し、療養環境の向上を図っていきます。

延床面積は、諸機能の充実に伴い、現状の約3万3,000㎡から約4万6,500㎡となり、敷地面積や駐車場も広くなります。手術室については、常時200名以上にのぼる手術待ちの患者さんに対応するため、現状の6室から12室に増室します。また、ICU・HCUについては、手術件数の増加に対応するため、HCUを6床から18床に増やします。

【施設整備イメージ図】



外来部門については、外来診察室を現状の32室から56室に拡充し、また、外来化学療法室を現状の24床から50床に増床して、外来患者さんの待ち時間の短縮等を図っていきます。

放射線治療については、現在、リニアック2台、マイクロトロン1台の体制で実施しているところを、リニアック4台の体制に拡充し、治療の充実を図ります。

新しいがんセンターの施設計画

新しいがんセンターは、現在の運転免許試験場の技能試験コース東側に移転し、一括して整備します。敷地の北側に「病院棟」、その南西に「管理・研究棟」、南東に「重粒子線治療施設」を配置する計画となっています。「病院棟」は地上7階・地下1階、「管理・研究棟」は地上5階の建物となり、「重粒子線治療施設」は「病院棟」の地下1階と接続します。

なお、「重粒子線治療施設」とは、炭素等の原子核を加速器で高速に加速してがんの病巣部に照射する重粒子線治療を行う施設のことであり、今回のPFI事業とは別の事業として計画を進めています。今年度は調査設計を実施しているところであり、平成26年度中の治療開始を目指しています。

事業スケジュール

今年の2月に、落札者が設立する特別目的会社と契約を締結し、設計、建設に着手することになります。平成25年11月には新しいがんセンターが開業する予定です。

今年からいよいよ設計、建設が本格的に進んでいきますが、新しい施設が完成するのはもう少し先になりますが、患者さんをはじめ関係者の皆様にはしばらくの間、ご不便をおかけしますが、皆様の期待に応える新しいがんセンターを作り上げてまいりますので、ご理解とご支援をくださいますようお願いいたします。

事業スケジュール	
平成22年2月	特定事業契約締結
}	設計・建設
平成25年11月	新がんセンター開業
}	(運営期間：20年5か月)
平成46年3月	PFI事業終了

【土地利用計画図】



先進医療として

抗がん剤感受性試験が

当院で行なえるようになりました

消化器外科 塩澤 学

近年、各種の癌の遺伝子発現、タンパク発現の詳細な検討がなされ、各臓器の特異性から新たな抗がん剤治療、分子標的治療が進歩してきており、奏効率および生存率も少しずつ改善されてきています。一方、この分子標的治療はその医療コストの増大からも無視できない問題となってきています。特に、効果の期待できない患者さんに対しては、その医療費の高額化が高額医療費で大部分が返還されるものの、自己負担額は決して安くなく、患者さんやご家族に経済的・身体的に負担をかけるだけになってしまいます。このような問題点を解決するために、近年、個別化治療の必要性が注目されつつあります。その背景には同一臓器発生の腫瘍でもその悪性度はさまざまであり一概にわれわれが第一選択としている治療が有効とはいえないのが現状であるからです。

先端技術として世を賑わしているDNAマイクロアレイを始め遺伝子発現の検討に関しては、高い技術進歩をとげている一方、より臨床に実用的であると期待される個々の癌に対する直接的な特性を検索するアレイ技術を用いた抗がん剤感受性試験などはいまだ発展途上で、臨床導入に至っていません。

細胞培養法を使った抗がん剤感受性試験は40年前の1970年代からすでに開始されSDI法、MTTアッセイ法などを経て現在はHDRA法およびCD-DST法が中

心となってきています。難しい検査方法は別として、今回当院で行なわれるCD-DST法は他の方法とは違って薬剤接触濃度が臨床治療濃度となっているのでより臨床に近いデータを得ることができることや、線維芽細胞など正常細胞の干渉も少なく感度が高いという特徴を持っています。現在、国内標準法の第1候補として期待されている方法です。これらを踏まえてすでに先進医療として国内20施設以上の各医療機関において術後補助化学療法や、再発時の抗癌剤治療の指標など、実臨床に則した目的で試験が実施されています。当院では、前企画調査室長の児玉先生がご尽力され、検査四科に技術を引き継いで実施しています。

神奈川県立がんセンターでは昨年に先進医療としてこの抗がん剤感受性試験の認可を受けることができました。先進医療としては当施設では子宮頸部癌パピロームウイルス検索、乳がんのセンチネルリンパ節同定に次いで3番目となります。がんセンターホームページや病院玄関前などに表示案内されており、すでに何件か問い合わせがあるようです。本技術の導入により、一人ひとりに適した感度の高い抗がん剤治療で患者さんの様々な負担が軽減されるとともに、医療費の減少、ひいては社会全体の利益につながるのではないかと思います。

また、がん専門病院として、通常の病院ではできない先進医療による最新技術の提供は今後のがんセンターにおける重要な位置づけとなることと思われます。さらに、QOL(Quality of Life)を最適化するためには生存期間を最長化することはもとより、苦痛の軽減、入院期間の短縮、治療後の生活能力を良好に保つなど広い意味での治療効果の向上を行なうことが当院のミッションだと考えます。進行・再発癌の患者さんには患者さんから問われる前に、ぜひ抗がん剤感受性試験を紹介していただき、各科がよりスマートな治療を提供できるようになればと願っています。

抗がん剤感受性試験の対象癌種

頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸膜炎、がん性腹膜炎、子宮頸部がん、子宮体部がん、卵巣がん、消化器がん（根治度Cの胃がんを除く）

評価可能抗がん剤

CDDP, CBDCA, DOC, VNR, GEM, CPT-11, MMC, VDS, VP-16, ADR, 5-FU, CPA, EPI, TS-1, 5-FU/LV, I-OHP, PAC

抗がん剤感受性試験は患者自己負担となります

患者自己負担額 56,800 円

抗がん剤感受性試験の流れは簡単です

FX（文書作成 05. 共通説明・同意書・承諾書 CD-DST 法説明同意文書）で同意書をプリントして患者さんにサインをもらう。

検体を採取して検査4科の伝票とともに検査4科へ送る（あらかじめ検査四科に連絡をしてください 内線 5900）

「君もブラックジャックになれる！」

キッズ外科手術体験セミナー

呼吸器科外科部長 中山 治彦



多くの方がキッズニアをご存じだと思います。こどもたちの、こどもたちによる、こどもたちのための国をコンセプトに、実物そっくりのいろいろな仕事体験ができます。その中に病院の仕事のパビリオンがあり大変な人気であると聞いています。さる9月26日の土曜日、がんセンター講堂でキッズセミナーが開催されました。このセミナーは子供たちに尊い人の命を救う外科医師の仕事を模擬体験してもらい、「将来外科医師や医療に携わる仕事に就きたい」という興味を抱いてほしいと言う趣旨で企画され、キッズニアと同様にジョンソン・エンド・ジョンソン社の協力で行われています。がんセンターでは、題して「君もブラックジャックになれる！」という副題をつけて企画しました。

まず開催日を諸般の事情から9月26日に設定し、対象者を旭区内の中学生24名としました。じつは小学生も入れたかったのですが、同伴する父兄のほうが子供以上に熱中し収拾がつかなくなってしまうことがあるそうで、今回は中学生のみを対象にしました。夏休みに入る前の7月に旭区中学校の校長会に古関副総務局長と出向いて、キッズセミナーの開催案内をお話してきました。中には学校の行事と重なり参加できないところもありましたが、先生方大変興味を示され、確実に応募多数のため抽選となる、という感触を得ました。ところが、夏休みが明け、開催1週間前になっても応募者は定員の半数にも満たないことが発覚しました。校長先生、長期の夏休みでセミナーの件を失念されてしまったのか、はたまた生徒が忙しいのか、関心がないのか、あれこれ考えましたが、やはり開催日を夏休み明けに設定したのがそもそもいけなかったようです。これは大変、と古関副総務局長の電話掛けまくり作戦や中島医事経営課長の職員のお子さん総動員作戦などがありました。最終的に教育行政にも明るい安西総務局長の声かけで、27名の中高校生の参加を得ることができました。

当日は、大崎所長のブラックジャックの話のあと、ガウン・帽子・マスク・手袋を装着して一見ピノコ風に変身し、いよいよスタートです。スーチャリングコーナー、自動縫合器・吻合器コーナー(スポンジを使った

模擬手術体験)、トレーニングボックスコーナー(内視鏡視下鉗子操作体験)、超音波メスコーナー(手術器具を使った模擬手術体験)、AEDコーナー、そしてがんセンターならではの企画として放射線治療コーナーも設け、計6つのコーナーを2時間かけて体験してもらいました。定員より参加人数が増えたことで進行に若干不安がありましたが、各グループの班長を務めていただいた手術室看護師のおかげで予定通りに進行しました。最後にセミナー修了書を全員に渡し、丸田副院長の子供たちに語りかけるような挨拶で終了しました。この模様は神奈川新聞やTBS「みのもんたの朝ズバッ!」でも紹介されました。

今回のセミナーは、あわよくば外科に興味を持って、少しでも外科医不足の解消となれば、なんてことも考えましたが、これで問題が解決するはずなどありません。まあ、すこしでも神奈川県立がんセンターの宣伝になればいいという下心もありました。が、真剣に聞き入る子供たち、熱心に操作する子供たち、感嘆の声を上げる子供たちに接すると、こういった下心などどこかに吹っ飛んで、セミナーをやってよかったとつくづく感じました。なによりも普段は難しい?顔で日々仕事に励んでいる医師、看護師、放射線技師たちの精一杯の笑顔と熱い指導を目の当たりにして、結構感動しました。お手伝いいただいた胃外科、呼吸器外科、麻酔科、放射線治療科の先生、手術室看護師、放射線技師、事務の皆さんに改めてお礼を申し上げます。



神奈川がん臨床研究・情報機構 について（後編）

「情報センター事業」のしごと

臨床研究所 看護師 山内 桂子

前号でお話ししたように、機構は神奈川県のがんへの挑戦・10か年戦略」のなかの重点項目「産学公共によるがん臨床研究・情報発信拠点のしくみづくり」を担うものとして平成18年5月に設立されました。事務局はがんセンター臨床研究所にあります。機構は「臨床研究事業」と「情報センター事業」を行っており、今回は「前編」として臨床研究事業についてご紹介しました。今回は「後編」として、情報センター事業についてご紹介します。ここでは、1)がんの電話相談と、2)主にインターネットを活用した、がんについての情報の提供を行っています。

1)がんの電話相談はがんセンターに長年勤務した経験をもつ看護師3名(非常勤、専任)が1日2名体制で担当しています。相談はどなたでも匿名ででき、県外の方や、アメリカ在住の邦人の方からかかってくることもあります。電話をかけてくる方はご本人が患者さんの場合と、患者さんに関係しているご家族や友人の場合が半々くらいです。がんという病気が、ご本人だけではなく周囲の人にも色々な面で影響を与えていることが分かります。相談の内容で多いのは治療方法の選択に関する悩みや、医師から受けた説明に関する質問です。そのような相談の内容をよく聴いていくと、「担当の医師とのコミュニケーションがもう少しとれていれば、このひとはこんなに悩まなくてもいいかもしれない」と感じるが多々あるようです。医療倫理が注目される昨今において、がんセンターでは「患者さんの権利」を掲示しており、その中に「病気や検査・治療について、わかりやすく、十分な説明を受ける権利があります」と書かれています。色々な病院でも同様のことが掲げられていると思います。日々、多忙な医療現場で働いている医療者に対して、どうやったらその権利を行使できるのか、相談者と一緒に考えることも電話相談の役割の一つになっています。また、適切な治療で予後が延長できる一方、長期にわたる治療で、副作用や気持ちの面でのつらさ、先が見えない不安、経済面での困窮などの問題を抱えて生活しているひとが多くなっていることも感じます。電話相談では直接介入して問題を解決することはできませんが、話を引き出しながらじっくりと聴いており、このことだけでも相談者は不安を軽減させたり、自身で問題解決の糸口を見いだしたりしているようです。この電話相談の周

知も徐々に得られ、初年度の相談件数は月平均101件でしたが2009年度は177件に増加しています。更に、多くの方にご利用いただきたいと思います。

2)情報の提供は、がんについての正しい情報を県民の皆さんに提供することを目的としています。最近インターネットが普及し、がんに関する書籍もたくさん出版されています。一見、便利なようですが、あふれる情報から自分に必要な正しい情報を見つけ出すことを困難と感じる方も多いのではないのでしょうか。このような現状からこの事業はスタートしました。

機構が提供している情報のうち、メインとなるのは「県内の病院についてのがんの診療に関する情報」です。各病院の、がんの部位別の手術件数や診療している患者数、検査などの設備の内容、治療の実績、緩和医療の実施の状況などを見ることができます。この情報源は1年に一回、各病院に調査の依頼を行い、そこで得られた回答です。その他、国立がんセンターの「がん情報サービス」や、神奈川県の「かながわ医療情報検索サービス」など、信頼できる情報サイトにもリンクを張って、情報を見つける手助けをしております。インターネット以外の情報提供では、ポスターを作成して市町村の施設に配布したり、がんに関する基礎知識や、予防方法などをまとめたパネル(県庁新庁舎、がんセンター内で展示したもの)を各種イベントで展示したりしています。12月は小田原の行政センターで展示しました。今後も場所を変えて展示を続ける予定です。

前号から前編、後編と機構のご紹介をさせていただきました。地道な活動ですが、研究の推進や情報提供に、縁の下力持ちとして取り組んでおります。ご意見などがありましたらお聞かせいただければ幸いです。

がんの電話相談
専用電話番号



045-360-6196

平日10時～12時、13時～15時
どなたでも、お気軽にお電話下さい。

**神奈川県立がんセンター市民公開講座
「がんを知る」"肺がん"検査、治療の上手な受け方選び方 ~最新事情を現場から~
を開催しました!!**

去る2010年1月16日に、横浜みなとみらい地区にある、はまぎんホールヴィアマーレにおいて、神奈川県立がんセンター市民公開講座「がんを知る」の第1回 "肺がん"検査、治療の上手な受け方選び方 ~最新事情を現場から~を開催いたしました。



この公開講座は、がんに関する情報をより多くの方々に知っていただき、正しい知識を持っていただくことにより、がんの早期発見、早期治療へつなげていくことを目的に、がんセンターが一丸となって「がんを知る」というテーマで、がんの治療現場に携わる医師の講演を中心に、関係各所のお力をお借りしながら実施したものです。

第1回の今回は、難治がんのひとつである「肺がん」をテーマに、肺がん早期発見の意義、早期診断をはじめ、内科、外科、放射線科などの領域における治療の進歩などを一人でも多くの方々に知っていただくことを目的に実施しました。



事前に400名を超える方々にお申し込みをいただき、開催当日は、寒い中350名を超える方々にご来場いただきました。

はじめに、古尾谷光男神奈川県副知事にご挨拶いただき、玉井拙夫衛生研究所長に「神奈川県の禁煙対策と期待される効果」と題して、神奈川県の禁煙条例とたばこの害についてお話いただきました。

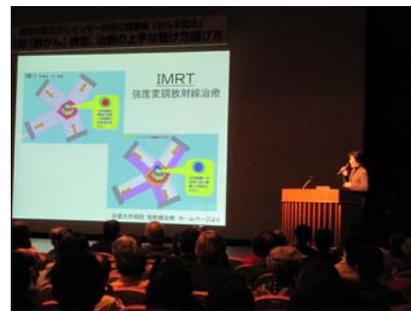


続いて、山田耕三呼吸器内科部長による「肺がんの診断、抗がん剤治療のいま」では、肺がんの最新の診断方法から治療について、レントゲンとCTの違いを



色々な症例の画像で見比べるなど、見応え聞き応えある講演となりました。

中山治彦呼吸器外科部長による「患者さんに優しい手術を目指して」では、体に優しい手術について、実際に手術で使っている機器を、肺に見立てたスポンジで実演した動画などを使って解説するなどし、普段見ることのできない手術の様子を垣間見ることができる講演となりました。

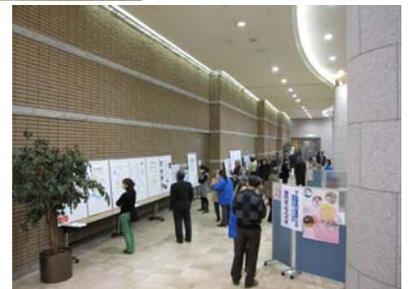


中山優子放射線治療科部長による「進歩する放射線治療で治す」では、現在の放射線治療の紹介から今後導入予定である重粒子治療についての講演があり、常に動いていて放射線を照射するのが難しい臓器である、肺の放射線治療について、きちんと治療をすることができるメカニズムなどを、動画を使ってわかりやすく解説する講演となりました。

また会場のロビーでは、がん専門認定看護師による個別相談会、がん研究の紹介展示も行いました。



また会場のロビーでは、がん専門認定看護師による個別相談会、がん研究の紹介展示も行いました。



休憩時間中には、がんセンターでミニコンサート等を行っている「病院ボランティア会ランパス」さんに、声楽の演奏を行っていただきました。

『認定看護師』について

感染管理認定看護師

(B棟2階病棟) 福田 里美

日本看護協会では、看護をいくつかの専門分野に分け、専門の教育・研修を受けた看護職への資格認定を行っています。1995年に制度が発足、1997年に初の認定看護師が誕生しました。2010年1月現在、専門分野は19分野、全国で5795名が登録しています。当院には患者さんや御家族へのより良い看護の提供を目指し、7つの専門分野において総勢24名の認定看護師が所属し、活動しています。

当院の認定看護師資格取得者の内訳は、がん性疼痛看護8名、集中ケア3名、緩和ケア5名、がん化学療法看護1名、皮膚・排泄ケア看護4名、感染管理2名、乳がん看護1名です。(2009年1月現在)活動の場は、専任者としてあるいは、病棟・外来看護師としてなど様々ですが、認定看護師の役割である、水準の高い看護の実践 実践を通しての指導・助言 スタッフに対する相談、を担っています。

私は昨年度、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター感染管理認定看護師教育課程で約7カ月もの間、学ばせていただき2009年6月に認定資格を取得することができました新米の認定看護師です。何十年ぶりの学生生活で、数多くの素晴らしい講師の先生方から授業を受けることができ、大変な事もありましたが非常に充実した毎日を過ごすことができました。

ここで、私の取得した感染管理認定看護師について少しご紹介したいと思います。私達は、患者さん・職員・ご家族など病院にかかわるすべての人を感染から守るために、日々の看護実践及び院内感染対策チームの一員として活動し、感染予防対策が適切に行えるよ

うにするための教育・指導を担っています。また、感染症発症時には迅速で適切な対応ができるよう、医師をはじめとした様々な職種の方々と協力しあい活動しています。2009年は新型インフルエンザが猛威をふるい、感染管理の重要性が叫ばれた年でもありました。

今後も皆さんのお役に立てる様な活動ができればと思っています。

ボランティア会ランパスによる患者さんのための 3・4月木曜ミニコンサート予定表

1回目 PM1:30 ~ 2回目 2:30 ~ 各20分前後

3月4日 池内光子 (アコーディオン)

3月11日 本田武久 (テノール)

演奏時間の変更 午後3時30分~(約30分)

3月18日 木村知恵子 (声楽)

3月25日 マリエリカ (アンサンブル)

4月1日 能登弓子 (マリンバ)

4月8日 大橋まり (声楽)

4月15日 神谷ゆりえ (ピアノ)

4月22日 鮫島明子 (ピアノ)

4月29日 お休み



平成21年度 8・9・10・11・12月の 1日平均患者数

(単位:人)

区分	8月	9月	10月	11月	12月
入院	346.5	326.2	325.1	324.2	315.2
外来	523.4	585.2	558.2	592.8	599.1



集後記 新病院建設の落札者が決まり3年半先の完成を心待ちにしたいところです。昨秋にはキッズ外科手術体験セミナーが開かれ、中学生の若さと好奇心、歓声があふれた場となりました。だれか一人でも医師になり、外科に興味を持って県の医療を支えてもらえることを期待しています。先進医療として抗がん剤感受性試験が認可されました。患者さんの個性に合わせたテーラーメイド医療の一つとなるでしょう。がん情報センターではがんの電話相談を受け、

また県下の病院の情報も提供しています。多種の認定看護師が活動しています。これらのことが県民の皆様のお役に立ち、そして新病院の診療展開につながることを期待しています。この1月には肺がんの市民公開講座を開催し、多くの県民の参加をいただきました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。今後もこのような場を設けていくことにしています。(企画情報部長 野田和正)

編集・発行 : 神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241 0815 横浜市旭区中尾1-1-2

TEL 045-391-5761 (内線2510)

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/gan/index.htm>